

2022年5月期決算 説明資料

2022年7月12日

 三協立山株式会社

✓ 2022年5月期業績は前期比で“増収減益”

◆ 売上高は全事業において増収 全体で約393億円

- ・国内外においてコロナ禍からの回復傾向が継続し物量が増加したこと、アルミ地金市況と連動する売上の増加（マテリアル事業・国際事業）

◆ 営業利益は 約7億円減益

- ・建材事業などの各事業で価格改定を推進するも、諸資材価格（アルミ地金・電力・燃料・鋼材など）高騰に加えて、期中に発生した地政学的リスク顕在化や為替の急変動により減益

◆ 期末配当は据え置き（1株当たり5円を予定）

- ・継続的な配当方針および財務状況などを踏まえて2Q予想からの変更なし

✓2023年5月期業績予想について

◆ 売上高3,750億円、営業利益50億円を予想

- ・売上高は価格改定の浸透や自動車分野での物量増、加えてアルミ地金市況と連動する増加
- ・営業利益はコスト削減や価格改定の浸透に加えて国際事業改革により回復

◆ 年間配当は1株当たり20円を予想（前期は15円）

- ・当期の業績回復見通しを踏まえて1株当たり5円の増配を予想

✓2023年5月期業績予想と中期経営計画との対比について

◆ 売上高は中期経営計画から大きく増加（+520億円）

- ・中期経営計画の前提が大きく変動（地金価格高騰・為替変動・価格改定等）

◆ 営業利益は中期経営計画に対して10億円未達

- ・中期経営計画前提から諸資材価格が高騰
コスト削減、価格改定を進めるも今期は未達を予想

*** 最終年度の2024年5月期は収益改善施策により中期経営計画値90億円を達成見込み**

業績結果

(億円)

	2022/5期 実績	2021/5期 実績	前期比(*1)		2022/5期 期初計画	計画比		2022/5期 4Q3ヶ月実績	前年同期比	
			増減	%		増減	%		増減	%
売上高	3,405	3,011	+393	+13.1%	3,200	+205	+6.4%	899	+66	+7.9%
営業利益	37	45	▲7	▲17.2%	39	▲1	▲3.0%	10	▲9	▲45.3%
営業利益率	1.1%	1.5%		▲0.4p	1.2%		▲0.1p	1.2%		▲1.2p
経常利益	41	52	▲10	▲20.0%	31	+10	+35.4%	15	▲5	▲24.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3	16	▲12	▲76.5%	4	▲0	▲1.1%	0	▲5	▲81.7%

(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、前年同期比は参考値として記載

※金額は億円未満切り捨て表示、率は四捨五入表示

配当

1株当たり

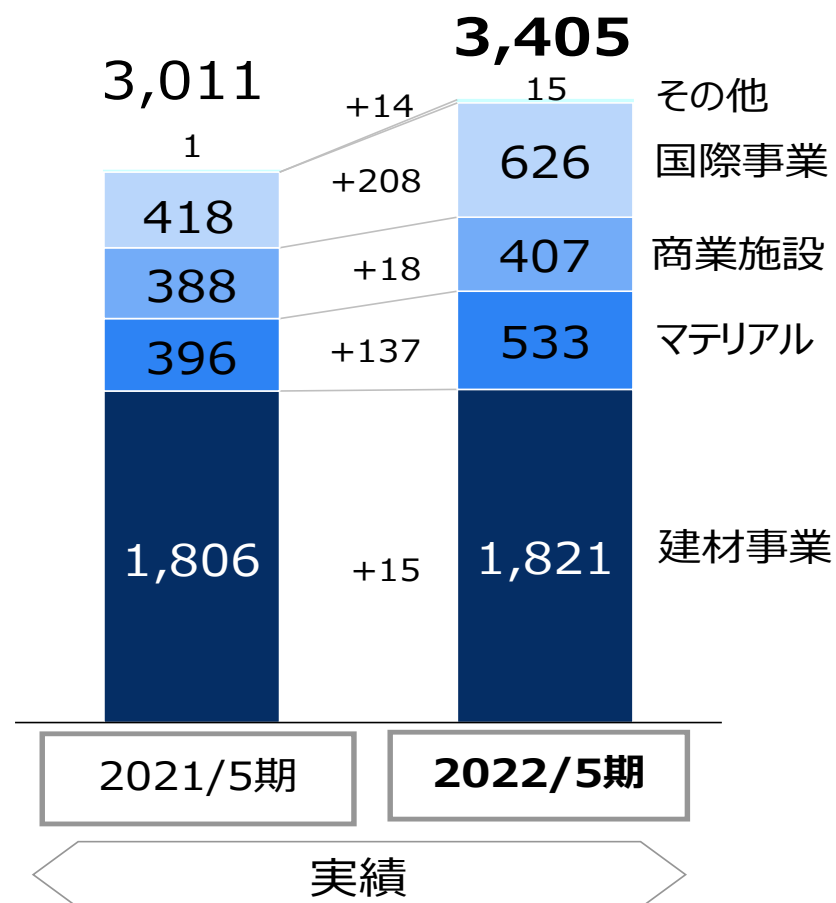
中間配当 10円

期末配当 5円(予定)

売上高

3,405 億円

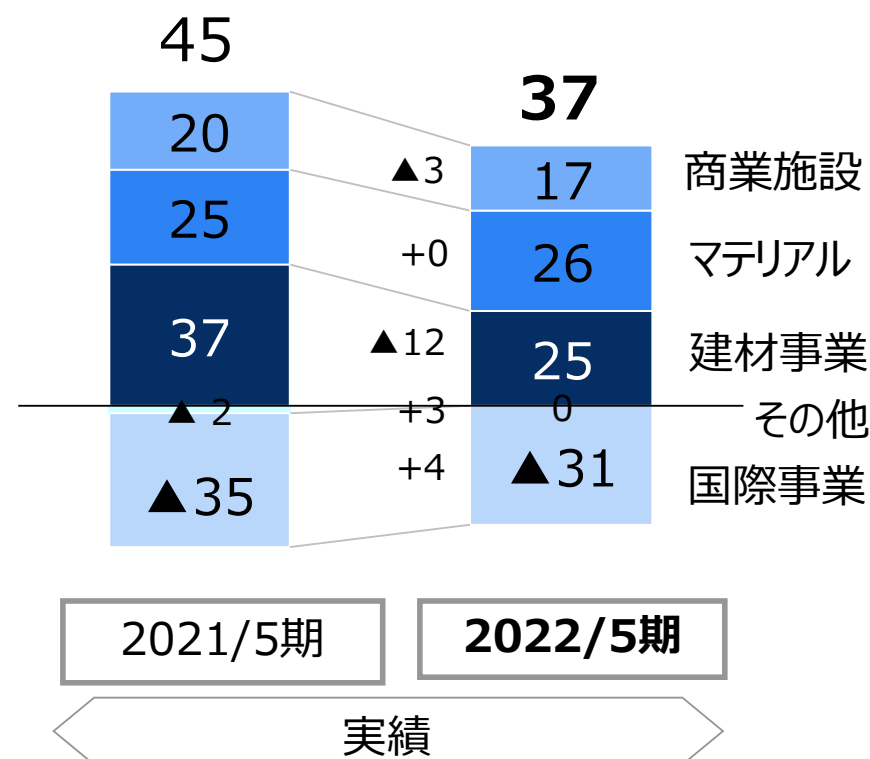
前期比 +393 億円
(+13.1%)



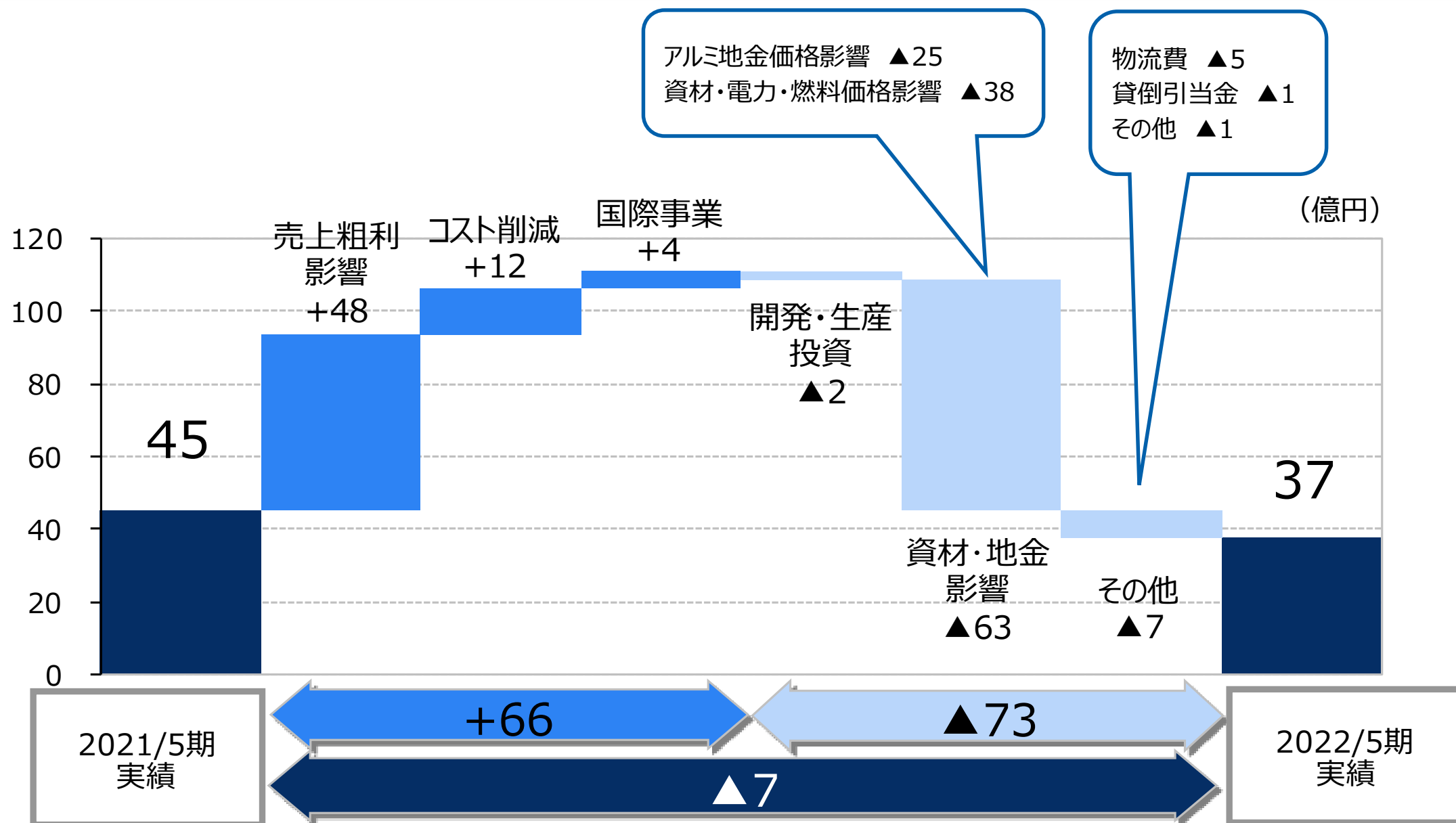
営業利益

37 億円

前期比 ▲7 億円
(▲17.2%)



※金額は億円未満切り捨て表示

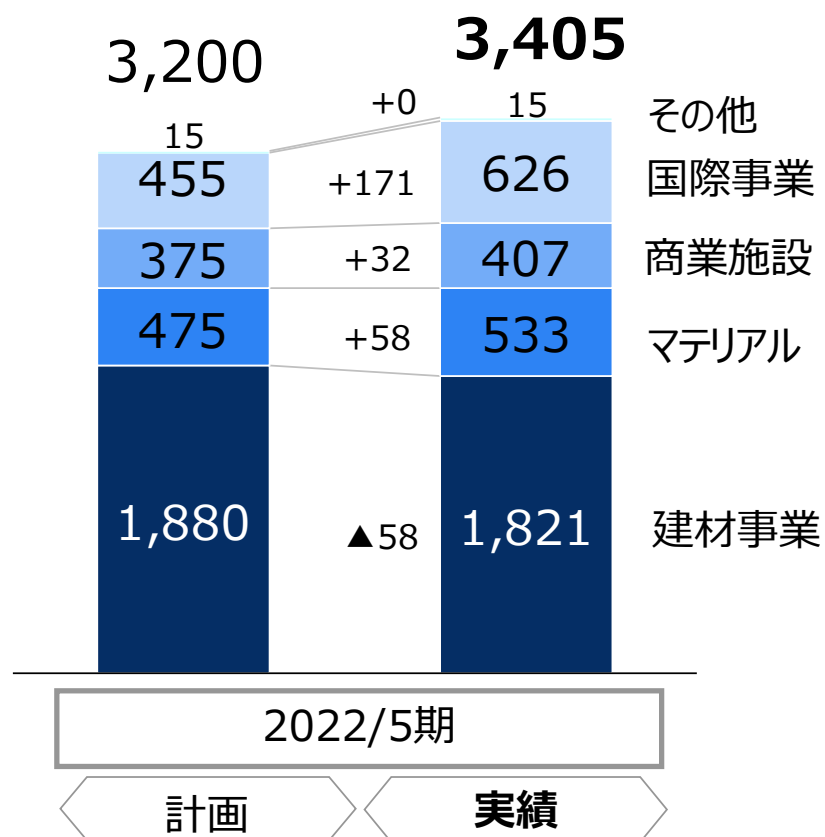


※国際事業に係る利益増減については、「国際事業」に集約
 ※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

3,405 億円

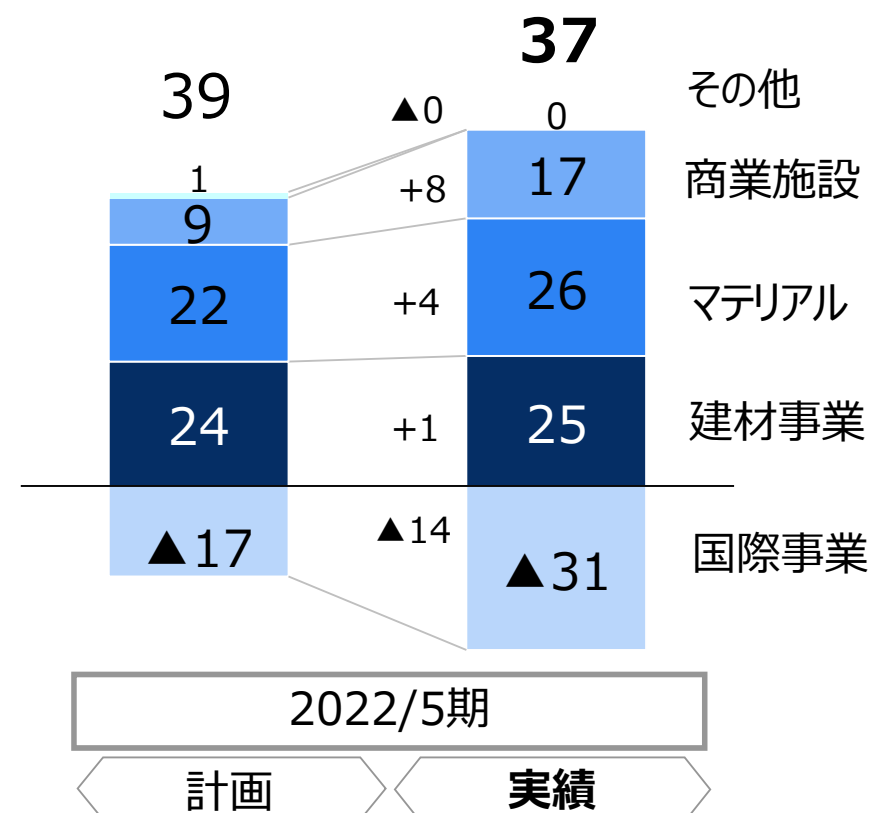
計画比 +205 億円
(+6.4%)



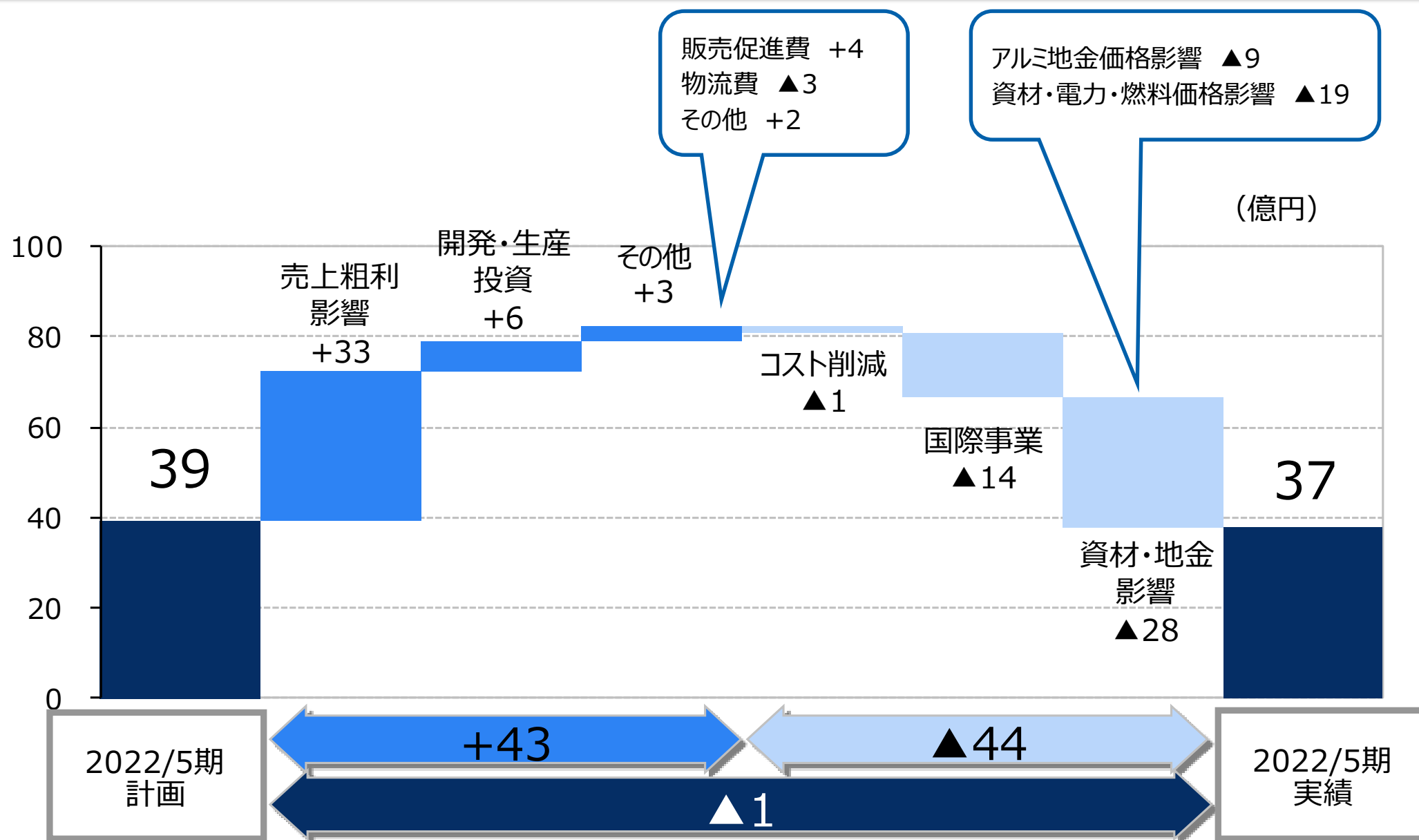
営業利益

37 億円

計画比 ▲1 億円
(▲3.0%)



※金額は億円未満切り捨て表示



※国際事業に係る利益増減については、「国際事業」に集約
 ※金額は億円未満切り捨て表示

業績予想

第2四半期
業績予想

(億円)

	2023/5期 2Q業績予想	2022/5期 2Q実績	増減額	%
売上高	1,840	1,650	+ 189	+11.5%
営業利益	21	30	▲ 9	▲ 30.8%
営業利益率	1.1%	1.8%		▲ 0.7p
経常利益	20	27	▲ 7	▲ 28.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9	9	▲ 0	▲ 7.8%

通期
業績予想

(億円)

	2023/5期 通期業績予想	2022/5期 実績	増減額	%	今中期計画	増減額	%
売上高	3,750	3,405	+ 344	+10.1%	3,230	+ 520	+16.1%
営業利益	50	37	+ 12	+32.2%	60	▲ 10	▲ 16.7%
営業利益率	1.3%	1.1%		+ 0.2p	1.9%		▲ 0.5p
経常利益	47	41	+ 5	+ 11.9%	-	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	25	3	+ 21	-	-	-	-

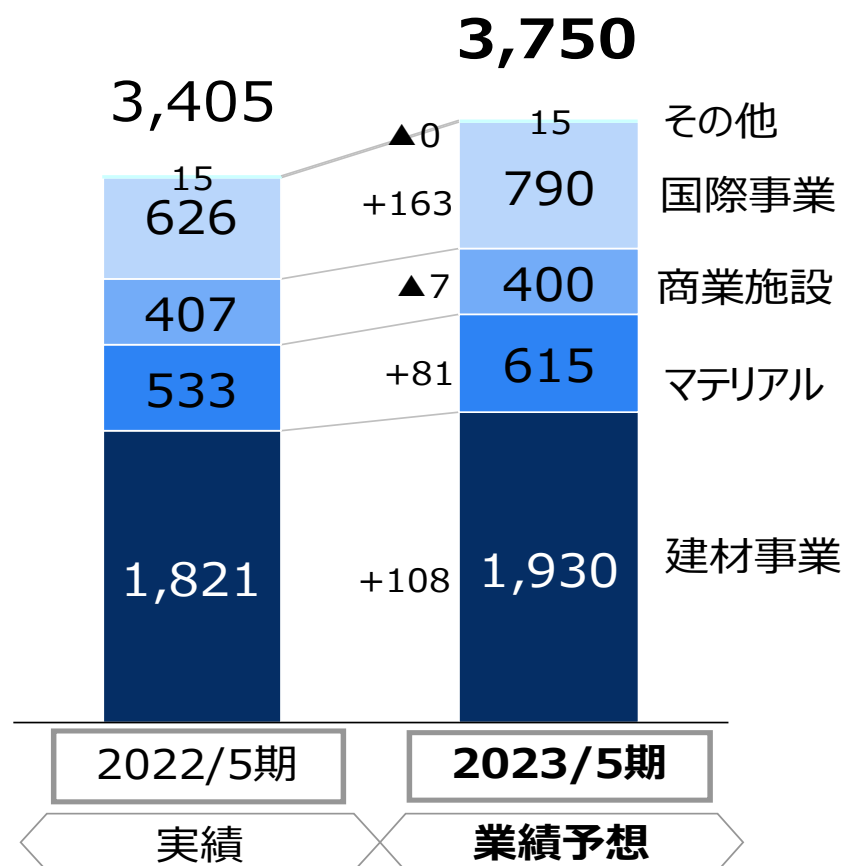
※金額は億円未満切り捨て表示、率は四捨五入表示

配当予想

1株当たり 年間20円を予想（中間配当10円 期末配当10円）

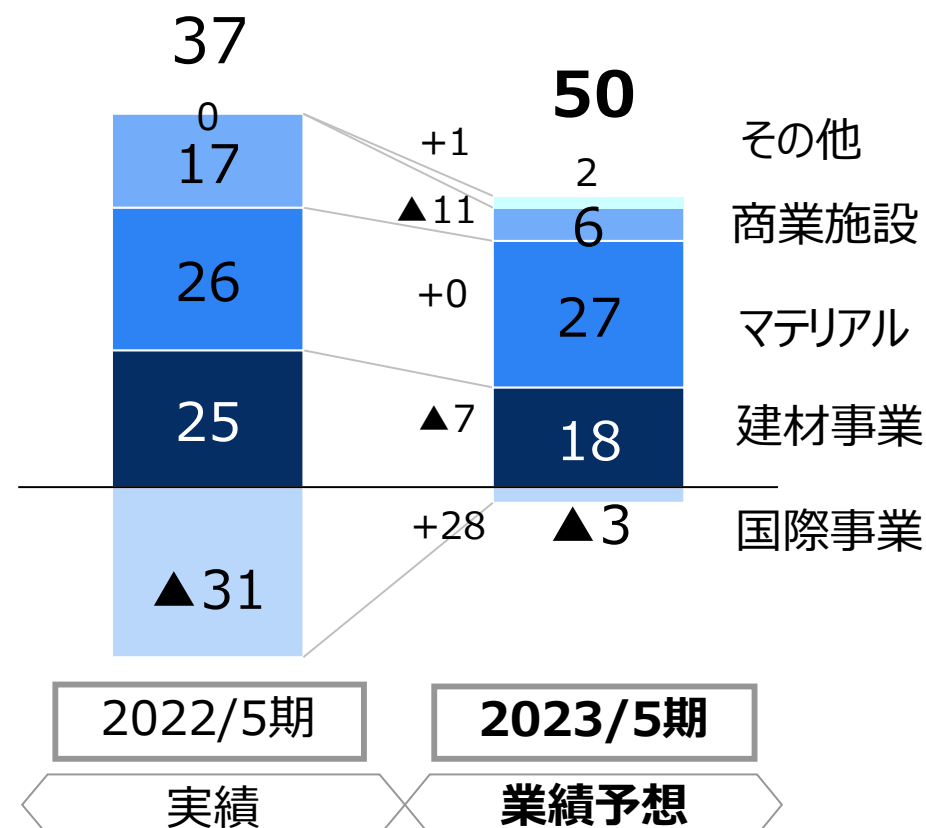
売上高

当期業績予想 **3,750 億円**
 前期実績 **3,405 億円**
 前期比 **+344 億円**

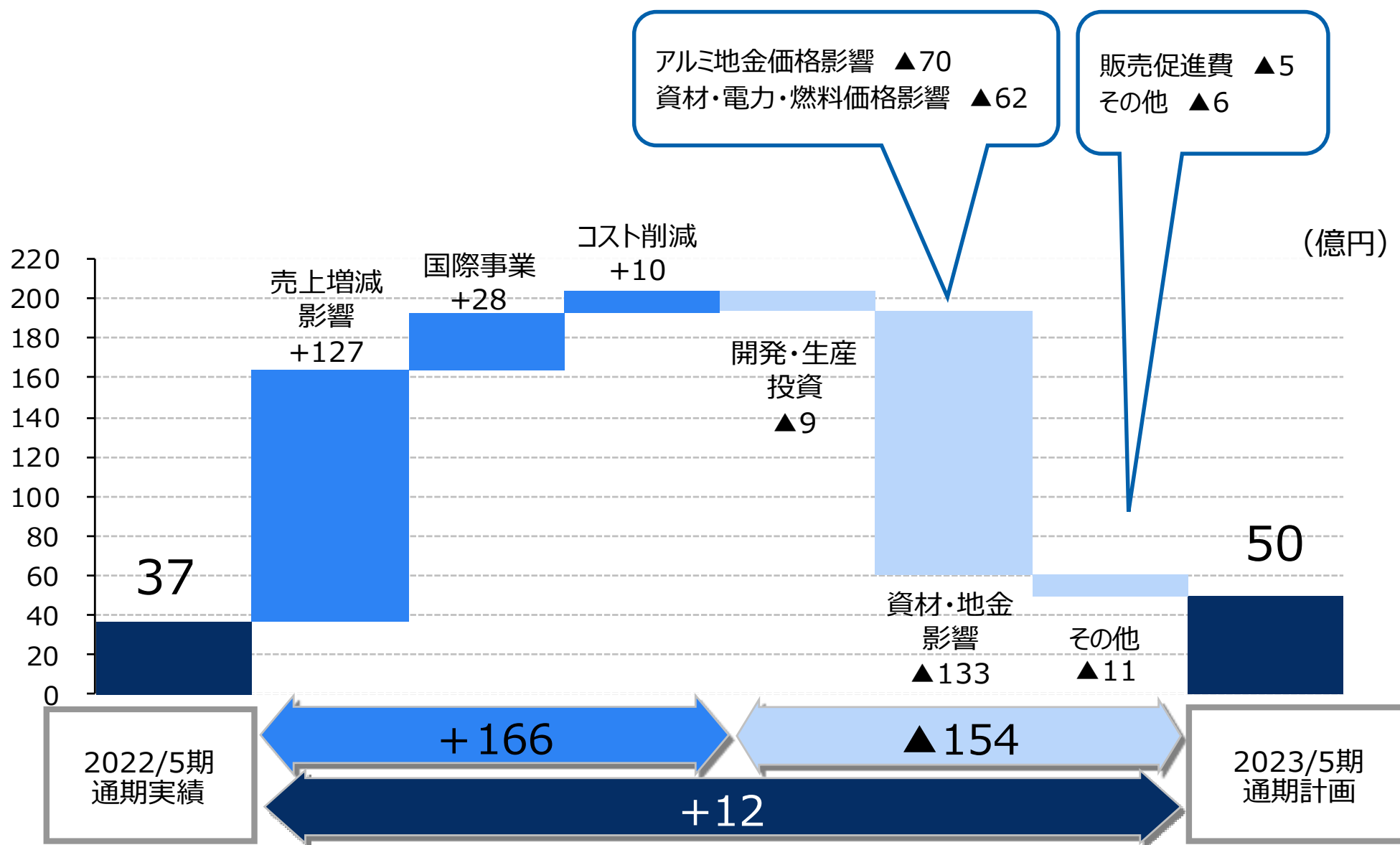


営業利益

当期業績予想 **50 億円**
 前期実績 **37 億円**
 前期比 **+12 億円**



※金額は億円未満切り捨て表示

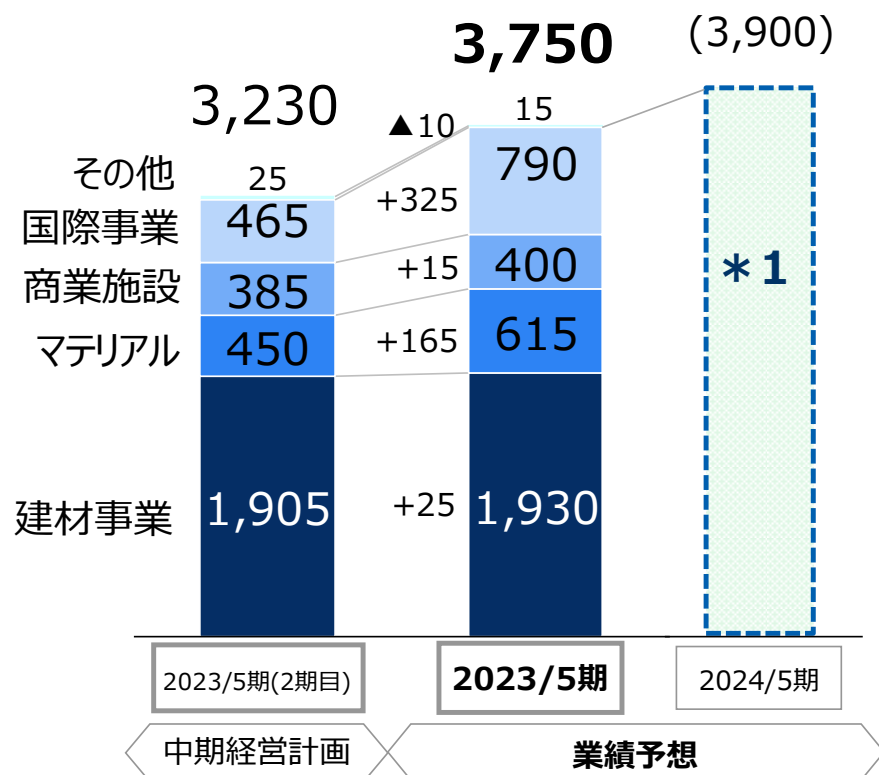


※国際事業に係る利益増減については、「国際事業」に集約
 ※金額は億円未満切り捨て表示

2023年5月期業績予想と 中期経営計画との対比について

売上高

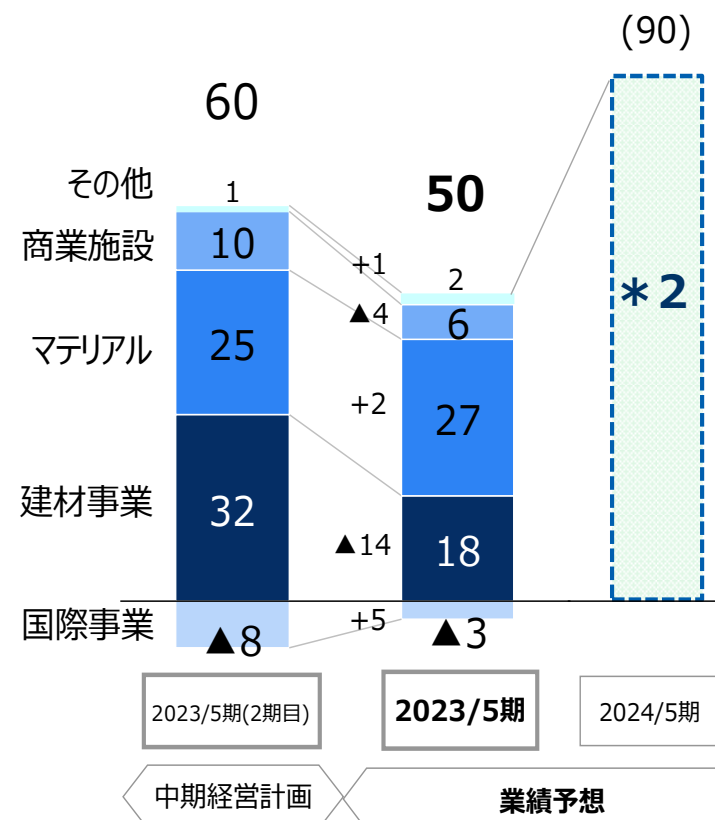
当期業績予想 **3,750 億円**
 中期経営計画
 (2期目) **3,230 億円**
 今中期経営計画比 **+520 億円**



***1** 2024年5月期の売上はアルミ地金市況との連動や価格改定などにより大きく増加の見込み。

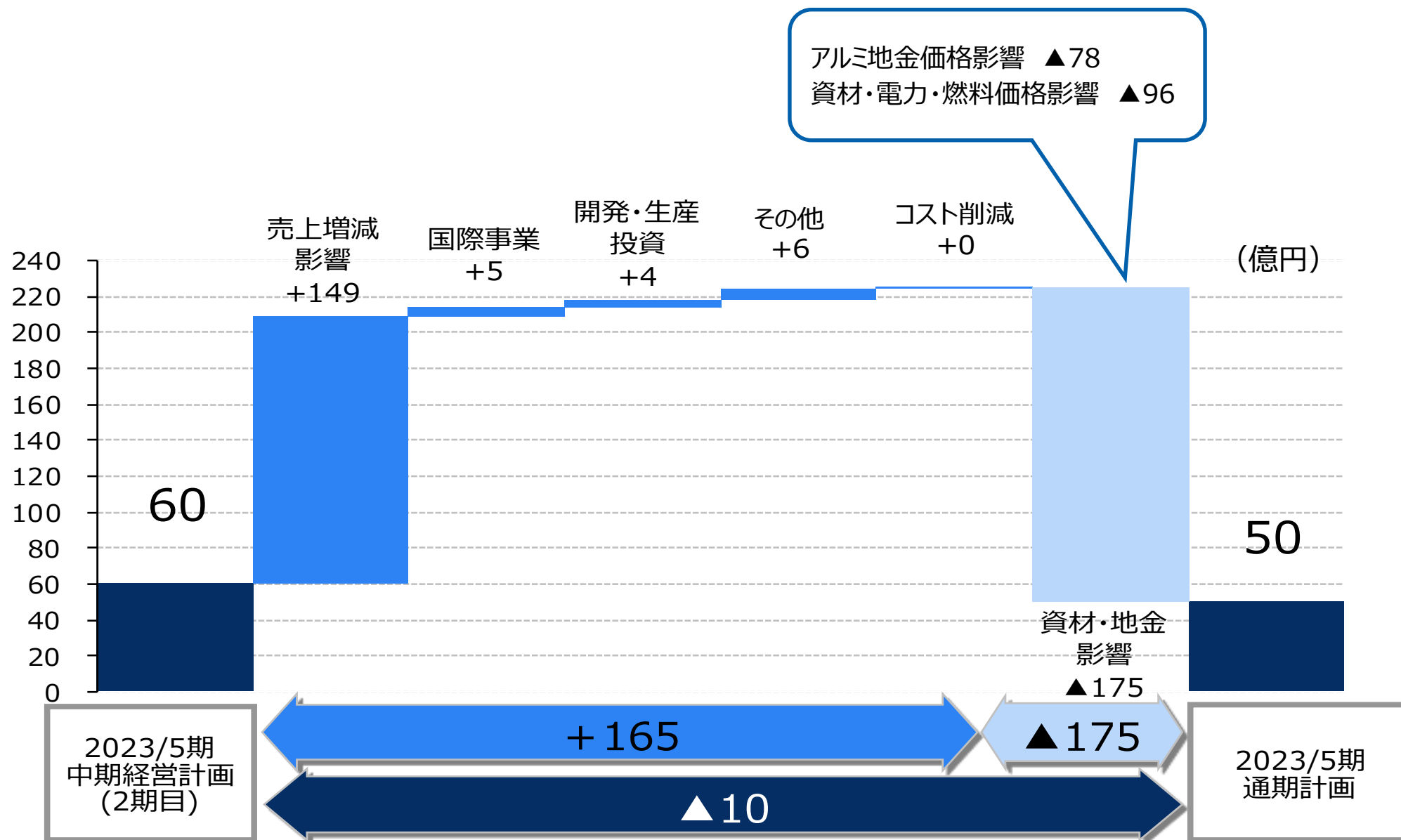
営業利益

当期業績予想 **50 億円**
 中期経営計画
 (2期目) **60 億円**
 今中期経営計画比 **▲10 億円**



***2** 2024年5月期の営業利益はコスト削減や価格改定の浸透により中期経営計画通りの額を見込む。

※金額は億円未満切り捨て表示



※国際事業に係る利益増減については、「国際事業」に集約
 ※金額は億円未満切り捨て表示

国際事業改革

(欧州子会社 STEP-G 改革の見通し)

自動車分野を中心とする物量増と収益改善効果などにより黒字化を目指す

<STEP-Gの業績と今期計画>

(億円)

	2022/5期 実績	2023/5期 計画	前期比	
			増減	%
売上高	472	616	+ 144	30.5%
営業利益	▲ 33	1	+ 34	-

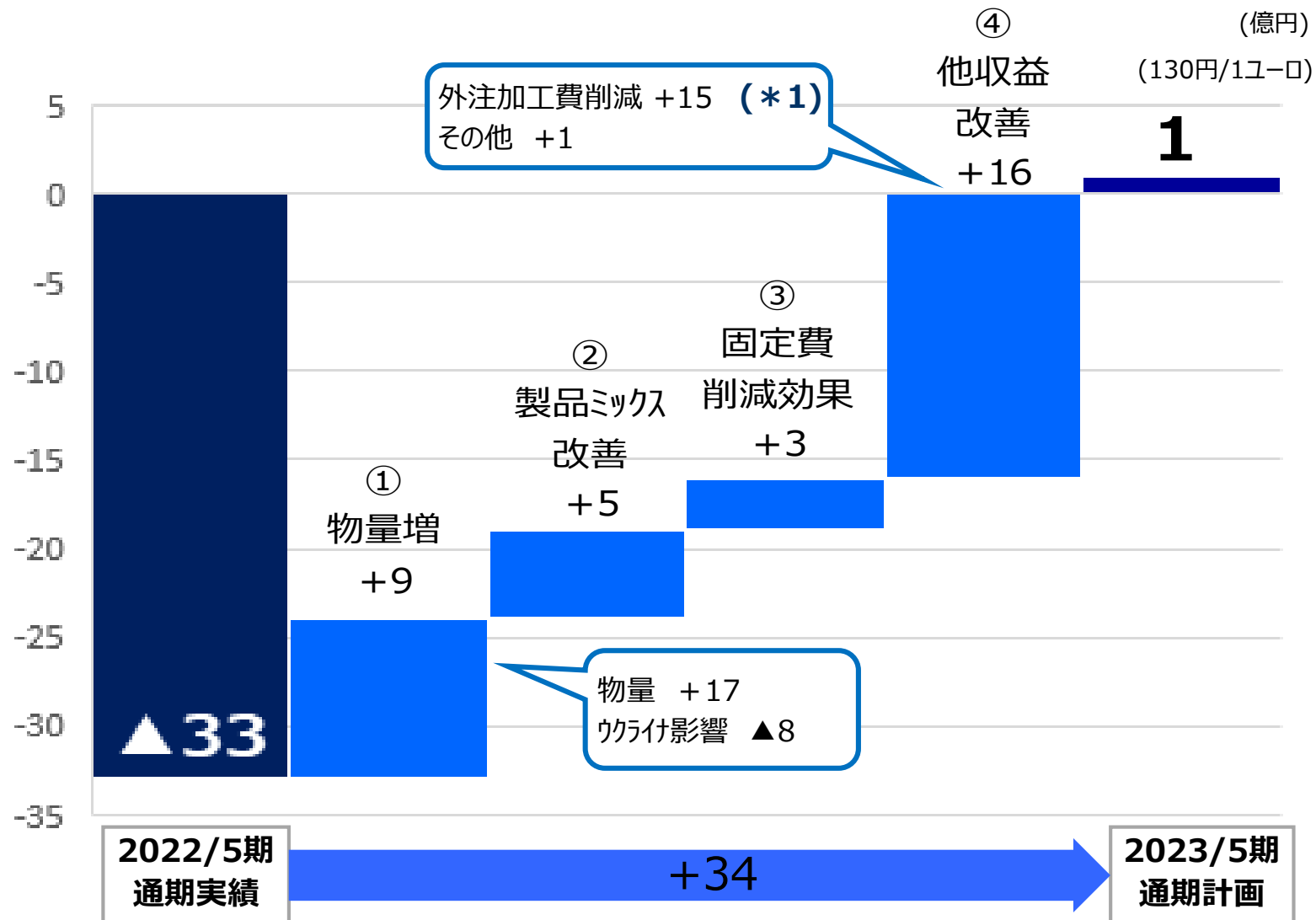
■ 売上増加要因

- ・アルミ地金市況に連動した売上 約110億円
- ・物量増 約30億円

■ 営業利益増加要因

- ・物量増 約9億円
- ・製品ミックスの改善 約5億円
- ・固定費削減効果 約3億円
- ・他収益改善 約16億円

■ 2022/5期実績と203/5期計画 営業利益増減要因分析



*1 : 自動車案件内製化設備稼働に伴う不要な外注加工費の削減

+15億円

ST Extruded Products Group (STEP-G)

2015年3月 米Aleris社より買収、三協立山グループに加わる
ドイツ(4工場)、ベルギー(1工場)、
中国(1工場)の計6工場
アルミビレット鋳造、型材押出、加工
従業員 約1,100名
売上高 約470億円 (2022年3月期)

Duffel: 押出



Hettstedt: 鋳造



Bitterfeld: 押出



Bonn: 鋳造、押出
(2022/3期
鋳造ライン閉鎖)



Vogt: 押出

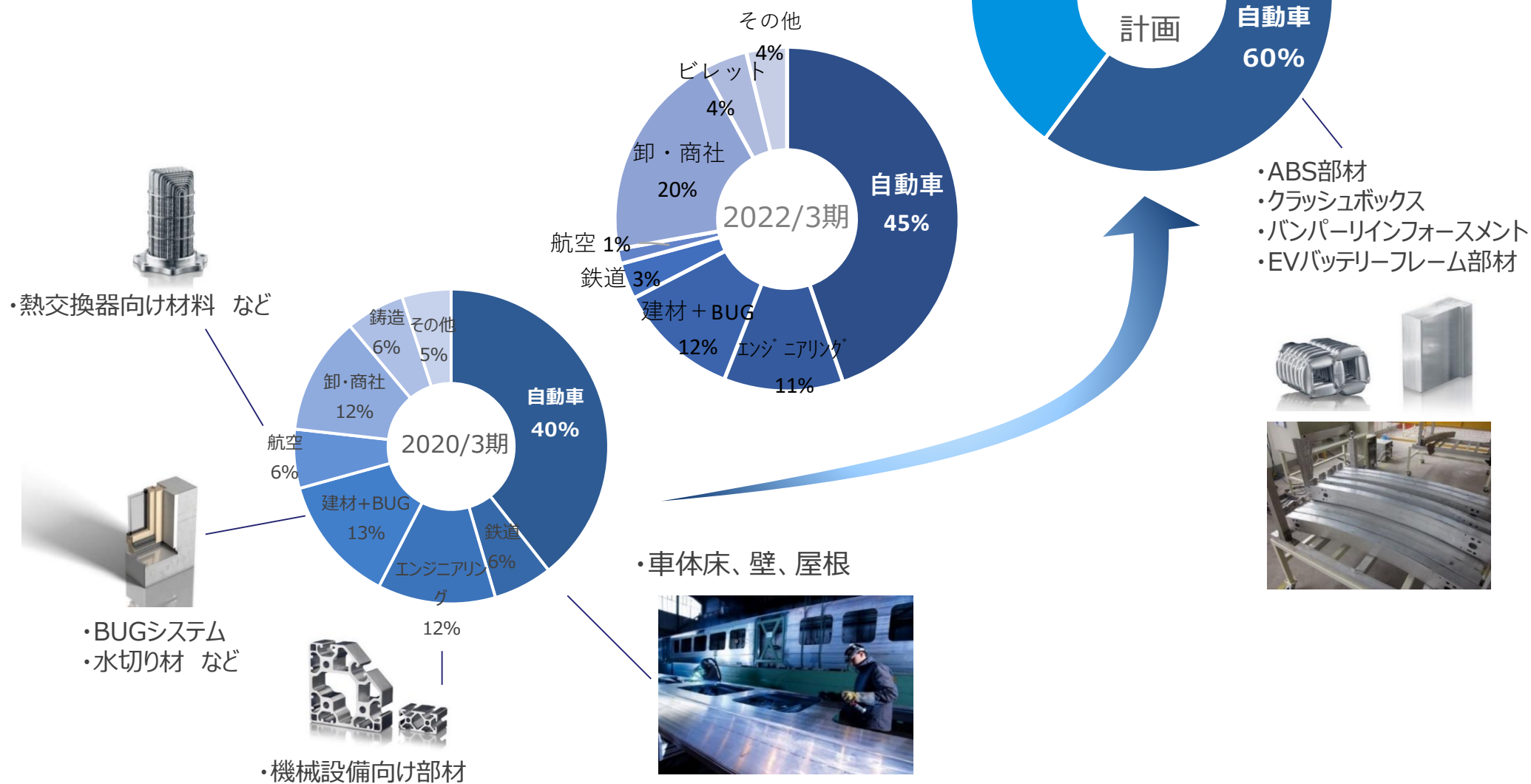


Ladenburg: 製品加工、販売
(2022/3期 閉鎖)



Tianjin, China: 押出

STEP-G 分野別販売量推移





Sankyo Tateyama Alloy (Thailand)

2014年 設立
アルミレット鋳造
従業員 約50名
売上高 約35億円
(2022年3月期)



Thai-Aust Aluminium

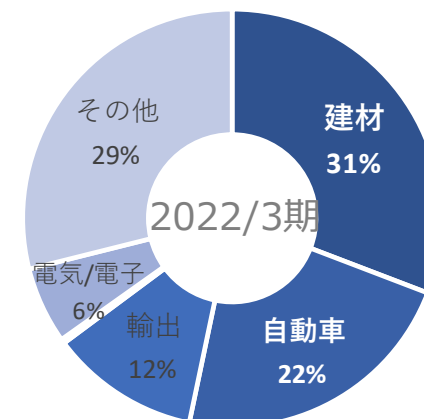
2015年 子会社化
アルミ建材組立、加工
従業員 約250名
売上高 約10億円 (2022年3月期)



Thai Metal Aluminium

分野別販売重量構成

2015年 子会社化
アルミ型材押出、加工
従業員 約1,000名
売上高 約140億円
(2022年3月期)



2022年5月期 トピックス

TCFD提言賛同表明 &

CO₂排出量の削減に向けた取り組み



2021年12月、
TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)※1
の提言に賛同を表明

今後は、TCFD提言に沿って、気候変動に関するリスクと機会が当社の事業活動、経営戦略、財務計画に与える影響について、必要なデータの収集と分析を行い、開示内容を充実。

これからも、さまざまな企業活動を通じて、サステナブルで豊かな暮らしに向けた社会づくりに貢献してまいります。

※1 G20からの要請を受け、金融安定理事会(FSB)が2015年に設立した機関。気候変動によるリスクおよび機会が経営に与える財務的影響を評価し、ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標について開示することを推奨している。



■使用する電力をCO₂排出ゼロ 100%再生エネルギー化

- ①・対象：三協立山本社、各カンパニー全国支店・事業所・営業所
(三協アルミ社・三協マテリアル社・タテヤマアドバンス社)、
社員寮 ※工場および、連結子会社は含まれません
 - ・運用時期：2021年12月1日～
 - ・CO₂排出削減量：年間 約3,660トン(当社2013年度排出量約24.7万トンに対する削減率 約1.5%)
- ②・対象：福野工場、福岡西工場、福岡西工場福岡分工場、
氷見工場
 - ・運用時期：2022年6月1日～
 - ・CO₂排出削減量：年間 約3,000トン(当社2013年度排出量約24.7万トンに対する削減率 約1.2%)

■バッテリー式フォークリフトへ移行

- ・対象：三協アルミ社 6工場、三協マテリアル社 5工場
※フォークリフト(3トン以下) 107台
- ・移行期間：2021年10月～2025年10月
- ・CO₂排出削減量：年間 約640トン(当社2013年度排出量約24.7万トンに対する削減率 約0.3%)
※バッテリー式フォークリフト充電時に発生するCO₂排出量を差し引いたCO₂削減量

サステナビリティビジョン2050、 2030目標、マテリアリティの公開

&

三協立山、ST物流サービス 健康経営優良法人2022認定

(主催：経済産業省および日本健康会議)



サステナビリティビジョン2050

Life with Green Technology

～「環境技術でひらく、持続可能で豊かな暮らし」を実現する企業グループへ～

カーボンニュートラルへの挑戦

- ・事業活動による温室効果ガス排出削減
- ・環境技術で創出する商品・サービスによる温室効果ガス排出削減

資源の循環

- ・主要原材料の循環使用の促進
- ・廃棄物の再資源化を推進

人財を未来へつなぐ

- ・多様性や人権を尊重し人材育成を推進

2030年 目標

温室効果ガス排出量

50%減

(2013年度比)
対象:国内グループScope1+2*

循環アルミの
使用を促進

女性管理職比率

10%

(2021年5月末 0.8%)



サステナビリティビジョン2050、2030年目標、
当社グループのマテリアリティを、
『三協立山 統合報告書2021』
(2021年10月発行)にて公開

従業員の健康管理を経営的な視点で考え、
戦略的に取り組んでいる法人として認定

三協立山



2022
健康経営優良法人
Health and productivity

「三協立山健康宣言」を策定し、ワーク・ライフ・バランスの
推進に加え、多様な人材が活躍できる風土作りを強化

子会社 ST物流サービス



2022
健康経営優良法人
Health and productivity
ブライト500

「健康経営宣言」を策定し、従業員が心身ともに安全で
働きやすく、働きがいがあると感じる職場づくりを目指す

※ ブライト500：中小規模法人部門のうち上位500社が
認定される



三協立山「ツインリーフの森づくり」(第20回) 活動を実施



三協立山グループでは、生物多様性の保護、CO₂の削減および地域の自然保護活動に貢献することを目的に、富山県が推奨する「企業の森づくり」に2013年4月から参画。

高岡市の雑木林に従業員とその家族のボランティアで、これまで2,500本の苗木を植樹。苗木が成長するまで、下草刈りなどの維持活動を行う。

2022/4/17(日)、「モンラックタカオカ」(旧：とやま・ふくおか家族旅行村)にて「ツインリーフの森づくり」活動を行った。今回は、感染症対策のため少人数で実施。

参加者は32名で、当日はさわやかな青空が広がり、これまでに植樹したサクラが咲く中での作業となった。苗木にからみつけたツルを切り、下草刈の際に目印となるよう苗木にピンク色のテープ付けを行い、また、周辺にスズメバチが巣を作らないようハチ捕獲器を設置し、今後も安全に活動できるよう対処した。

「2021年度グッドデザイン賞」 & 「第15回キッズデザイン賞」

(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)

(主催：キッズデザイン協議会、後援：経済産業省、内閣府、消費者庁)

3 すべての人に健康と福祉を



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



12 つくる責任 つかう責任



GOOD DESIGN AWARD

2021年度受賞

✓ ドアハンドル「ロングバーハンドル角型」



どこを持っても操作が可能なユニバーサル性の高いロングバーハンドルで、開閉力の軽減にも配慮。トレンドに合わせたスクエアなデザインでありながら、操作部は丸くやさしい手触りに。

✓ 通路シェルター「ファイブフォート」



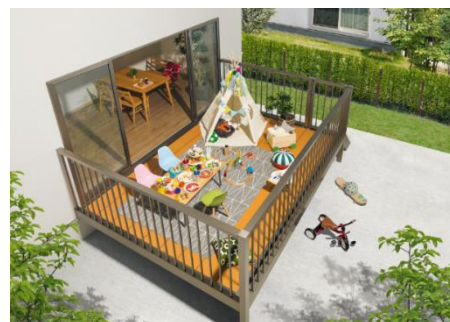
リサイクル性の高いアルミで、スチール構造に匹敵する業界最大級の柱ピッチと屋根張り出し量を可能にした通路シェルター。シンプルなフラット基調の屋根デザインと多彩な納まりバリエーションにより、どんな場所にでも。



KIDS DESIGN AWARD 2021

【受賞部門】 子どもたちを産み育てやすいデザイン部門

✓ バルコニー「オルネ」



バルコニー「オルネ」は、窓の外の空間を有効活用することにより、外出を控えている状況でも、自宅で安心して手軽にアウトドアを楽しめるバルコニー。安全性と快適性への配慮、機能アイテムの充実により、子育て環境の向上と身体的・心理的な負担軽減を図る。

✓ DI窓（ダイナミックインシュレーション窓）



「BEYOND COVID-19 特別賞」を受賞

DI窓は、窓を開けずに換気ができる二重窓。窓から逃げようとする熱（暖気・冷気）を回収し、室温に近い換気が可能。これにより、小さなお子さまがいても、窓を開けずに安全・安心に換気しながら、冬はあたたかく、夏はここよい空間を作り出す。



植物工場システム「agri-cube ID(アグリキューブ・アイディー)」 大型植物工場に納入

株式会社Misumi様 株式会社ベジタブルテック様

「agri-cube ID」：植物工場の「建設」から「栽培・運営サポート」までワンストップサービスを提供する植物工場システム
大和ハウス工業株式会社様（以下、大和ハウス工業）が、株式会社Misumi様、株式会社ベジタブルテック様の
植物工場を新築。三協立山は、植物工場設備の建設を請け負い、栽培技術・運用技術サポートを行う。



株式会社Misumi様

建設場所	鹿児島県始良市蒲生町
延床面積	1,282㎡
操業開始	2021年11月
栽培品目	葉菜類(グリーンリーフ・フリルレタスなど)
栽培規模	3,200株/日(フリルレタス 200g/株 換算で640kg/日)



株式会社ベジタブルテック様

建設場所	茨城県那珂市
延床面積	4,938.5㎡
操業開始	2022年5月
栽培品目	葉菜類(グリーンリーフ・フリルレタスなど)
栽培規模	11,250株/日(フリルレタス 200g/株 換算で2.25トン/日)



今後も、当社は大和ハウス工業と協業で、企業様の新規事業創出提案、遊休不動産活用提案、自治体・農業生産法人の新たな
農業事業創出提案などのご提案を行い、2026年度には年間5棟の植物工場「agri-cube ID」の導入を目指す。



✓ 玄関用収納網戸

6～5月 累計売上
前々年比**109%**



「アコーディオン網戸」 「てまノン網戸」

既存の玄関ドアや引戸に取り付けて風を採り入れる。「てまノン網戸」は丸洗いでできるのでいつもキレイ。

✓ アウトドアスペース & カースペース

6～5月 累計売上
前々年比**192%**



「グランフローア」

カースペースの上に生まれる、家族の新しい空間。多彩なパネルや豊富なバリエーションで、開放感あふれるアウトドア空間を演出。

✓ ガーデンルーム

6～5月 累計売上
前々年比**137%**



「ハッピーナリラ」

多彩な開口バリエーションが魅力のガーデンルーム。日中からナイトシーンまで快適なリラックス空間を。

✓ 自然換気商品

6～5月 累計売上
前々年比**108%**



「NAV商品」

機能的な自然換気が可能。

✓ 宅配ボックス

6～5月 累計売上
前々年比**178%**



「フレムス／ フレムスLight」

不在時でも在宅中でも配達員と接触せずに宅配便を受け取り可能。

✓ インテリア建材

6～5月 累計売上
前々年比**128%**

「AMiS」 (アルミモダンシステム)

在宅でのリモート空間を確保する可動パーティションや空間をつなぐ室内窓など。



✓暴風雨に耐える 高耐久性

2021年5月
強化・リファイン



「アルジオ耐風圧性能S-5」

大型台風やゲリラ豪雨に負けない、
タフな性能。
安全性能をさらに強化。

✓強靱な折板屋根 テラス

6～5月 累計売上
前々年比**198%**



「スーパーテラス GT」

風に強い！雪に強い！変形敷地に強い！
強風や大雪から暮らしを守るテラス。

✓耐積雪量・耐風圧 性能の増強

6～5月累計売上
前々年比**116%**



「G1-R」

地域の積雪量に合わせた強度
設計で、強風時における折板の
吹き上げや本体の揺れを抑える
さまざまな工夫。

✓免震商品

6～5月累計売上
前々年比**131%**



「URAYNUS (ユレいなす)」

店舗什器の下に敷くだけで、
陳列商品が棚から落ちにくくなる。ビンモノ商品の破片
によるケガ防止や、避難導
線の確保など、人的被害の
軽減が可能。

✓強風に負けない大型伸縮門扉

6～5月累計売上
前年比**381%**

「アルテンダフォルテ」

強風時でも扉を全閉状態で
使用可能。



✓求められる性能すべて を、ハイスペックに

6～5月累計売上
前々年比**132%**



「MTG-70R 高性能」

予測不能な自然の変化、持続可能な社会
の実現。



参考資料

	対象期間	2019年	2020年	2021年
【建材事業（住宅）指標】 新設住宅着工戸数	4月-3月	88.4万戸 (7.3%減)	81.2万戸 (8.1%減)	86.6万戸 (6.7%増)
新設住宅着工戸数 [持家]	4月-3月	28.3万戸 (1.5%減)	26.3万戸 (7.1%減)	28.1万戸 (6.9%増)
新設住宅着工戸数 [貸家]	4月-3月	33.5万戸 (14.2%減)	30.3万戸 (9.5%減)	33.1万戸 (9.3%増)
【建材事業（ビル）指標】 非木造建築物着工床面積	4月-3月	70.1百万㎡ (6.7%減)	64.5百万㎡ (8.0%減)	69.7百万㎡ (8.0%増)
【マテリアル事業指標】 アルミ型材押出重量[サッシ・ドア除く]	6月-5月	33.8万 t (5.5%減)	32.1万 t (5.1%減)	32.4万 t (0.9%増)
【商業施設事業指標】 建築着工棟数[店舗(民間建築主)]	4月-3月	6,158棟 (15.0%減)	5,010棟 (18.6%減)	5,457棟 (8.9%増)
【国際事業指標】 ドイツ自動車生産台数	4月-3月	441.7万台 (10.9%減)	343.1万台 (22.3%減)	298.4万台 (13.0%減)
タイ自動車生産台数	4月-3月	193.2万台 (11.8%減)	144.万台 (25.5%減)	169.7万台 (17.9%増)
【アルミ地金価格平均値】 [日本経済新聞より]	6月-5月	236.3円/kg	261.1円/kg	402.0円/kg

() は前期比

※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

	3ヵ月実績				実績累計			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	(億円)
1Q	410	421	+11	+2.7%				
2Q	472	484	+12	+2.7%	882	906	+23	+2.7%
3Q	435	451	+16	+3.7%	1,318	1,358	+39	+3.0%
4Q	488	463	▲24	▲5.0%	1,806	1,821	+15	+0.9%
'22/5期通期計画						1,880		

- ・新設住宅着工戸数、非木造建築物着工床面積とも持ち直しの動き
- ・好調なマンションなどのリフォーム需要を取り込んだこと
- ・イエナカ生活、換気・非接触対応商品などの需要増加

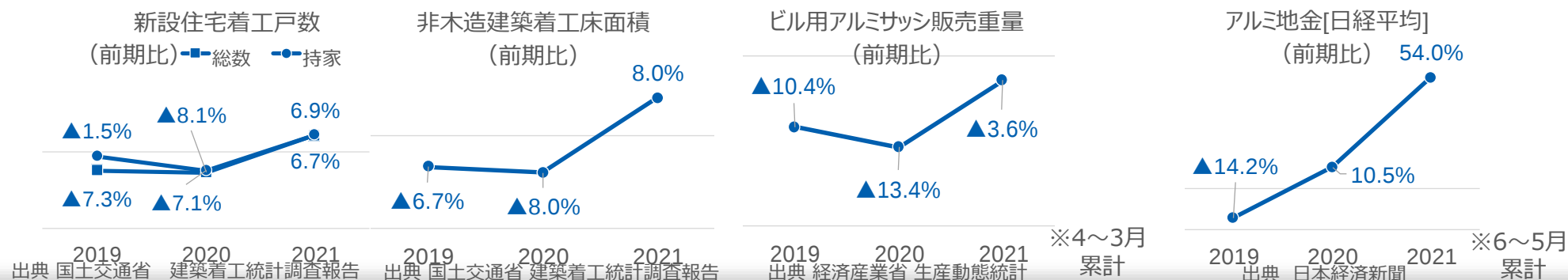
セグメント利益

	3ヵ月実績				実績累計			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	(億円)
1Q	▲0	4	+5	-				
2Q	14	12	▲2	▲14.9%	14	17	+2	+20.8%
3Q	4	▲2	▲6	▲160.5%	18	14	▲3	▲19.9%
4Q	18	10	▲8	▲44.8%	37	25	▲12	▲32.5%
'22/5期通期計画						24		

- ・アルミ地金等の原材料価格高騰に対して、収益改善施策などを進めた

(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、増減額、増減率は参考値として記載

事業環境



※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

	3ヵ月実績				実績累計 (億円)			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	78	119	+40	+52.1%				
2Q	100	126	+26	+25.9%	179	246	+66	+37.4%
3Q	102	135	+32	+32.0%	282	382	+99	+35.4%
4Q	114	151	+37	+32.5%	396	533	+137	+34.6%
'22/5期通期計画					475			

- ・一般機械、電気機器などの需要増加に伴う半導体製造装置向けの活況な設備投資
- ・アルミ地金市況に連動する売上増加

セグメント利益

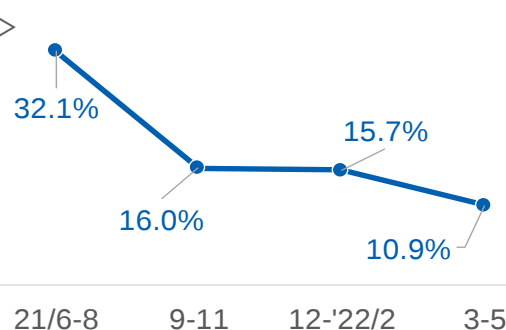
	3ヵ月実績				実績累計 (億円)			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	2	10	+8	+360.3%				
2Q	10	5	▲4	▲44.9%	12	16	+3	+30.6%
3Q	8	3	▲4	▲56.6%	20	19	▲0	-
4Q	5	6	+1	+23.0%	25	26	+0	+1.5%
'22/5期通期計画					22			

- ・燃料価格や添加金属などの原材料価格高騰の影響

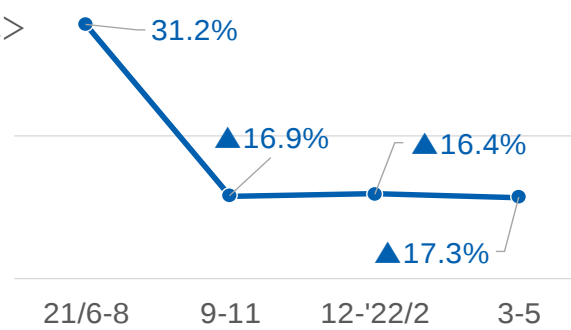
(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、増減額、増減率は参考値として記載

事業環境

国内アルミ形材押出重量 (前年同期比)



<自動車>



出典 日本アルミニウム協会統計

※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

	3ヵ月実績				実績累計			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	85	95	+10	+11.9%				
2Q	114	111	▲2	▲2.4%	199	206	+7	+3.7%
3Q	86	100	+13	+15.2%	286	307	+20	+7.2%
4Q	102	100	▲2	▲2.1%	388	407	+18	+4.8%
'22/5期通期計画						375		

- ・店舗建築着工が回復基調にあること
- ・小売業での人手不足、人件費上昇を背景とし省力・省人化投資の活発化に伴い既存店改装需要を取り込んだことなど

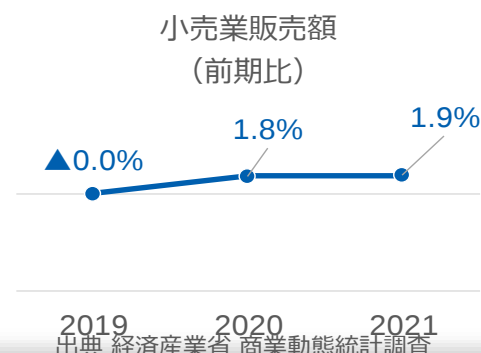
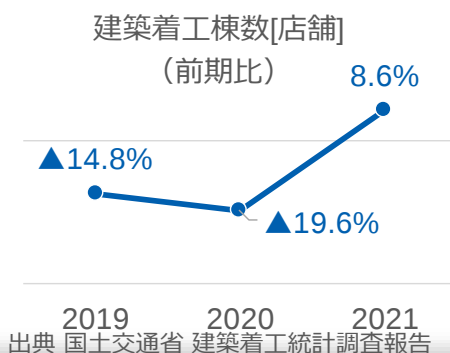
セグメント利益

	3ヵ月実績				実績累計			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	2	3	+1	+65.6%				
2Q	8	6	▲1	▲22.0%	10	10	▲0	▲1.9%
3Q	3	5	+1	+45.3%	14	15	+1	+10.4%
4Q	6	1	▲5	▲77.6%	20	17	▲3	▲18.0%
'22/5期通期計画						9		

- ・鋼材等の原材料価格高騰に対して業務効率の改善を進めた

(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、増減額、増減率は参考値として記載

事業環境



※4~3月累計

※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

	3ヵ月実績				実績累計 (億円)			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	89	144	+55	+61.9%				
2Q	98	143	+44	+44.8%	187	287	+99	+52.9%
3Q	102	158	+55	+54.1%	290	446	+155	+53.3%
4Q	127	180	+52	+41.7%	418	626	+208	+49.8%
'22/5期通期計画					455			

- ・アルミ地金市況の連動による売上増加
- ・欧州で機械分野などの販売物量増加
- ・タイで自動車分野を中心に好調に推移したこと

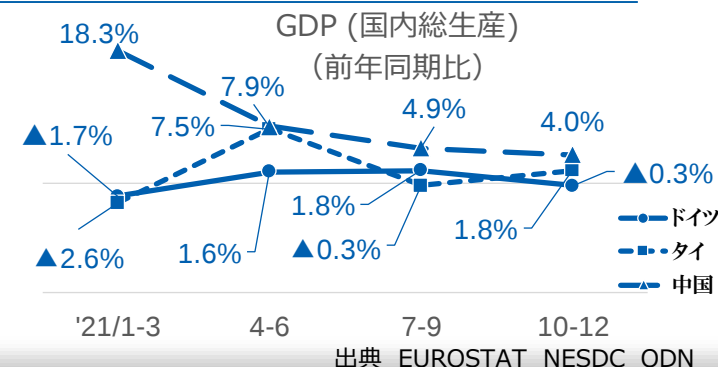
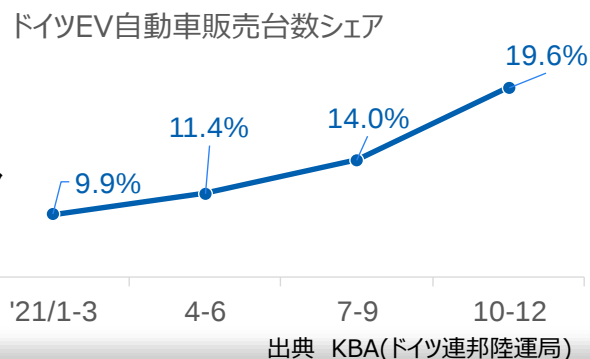
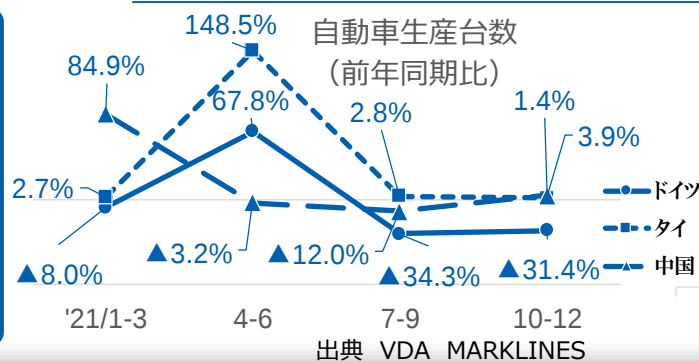
セグメント利益

	3ヵ月実績				実績累計 (億円)			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	▲6	▲4	+2	-				
2Q	▲9	▲8	+1	-	▲15	▲12	+3	-
3Q	▲9	▲10	▲0	-	▲25	▲22	+2	-
4Q	▲10	▲8	+1	-	▲35	▲31	+4	-
'22/5期通期計画					▲17			

- ・欧州では、半導体不足やロシアのウクライナ侵攻による燃料価格や原材料価格高騰の影響を受ける
- ・タイでは、売上増加や販売構成の改善が進んだ

(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、増減額、増減率は参考値として記載

事業環境



貸借対照表

2021/5期
2022/5期

(億円)

流動資産 1,268	流動負債 1,072
固定資産 1,260	固定負債 615
	純資産 840

流動資産 1,416	流動負債 1,218
固定資産 1,267	固定負債 610
	純資産 856

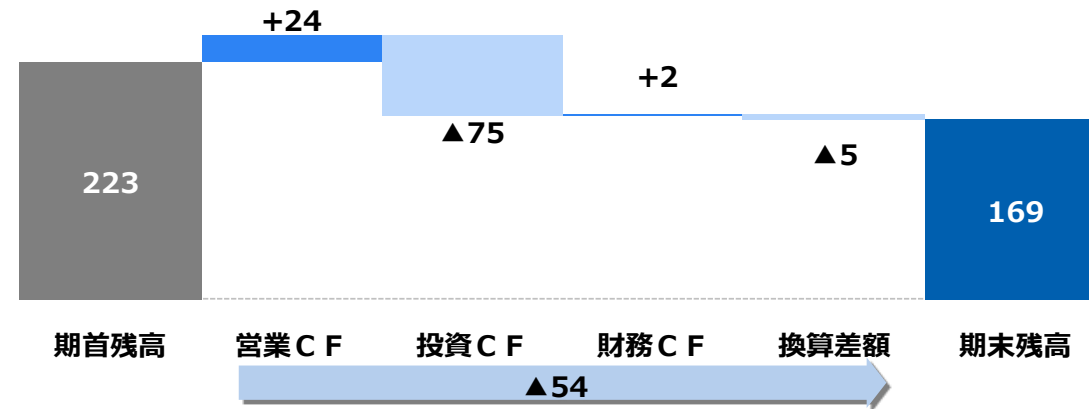
	2021/5期 期末	2022/5期 期末	前期末比
総資産	2,529	2,684	155
自己資本	813	825	12
自己資本比率	32.1%	30.8%	-1.3pt
有利子負債	690	703	12
有利子負債比率	84.9%	85.2%	0.3pt

※ 金額は億円未満切捨て表示、率は四捨五入表示

※ 自己資本 : 純資産 - 非支配株主持分
 自己資本比率 : 自己資本 / 総資産
 有利子負債 : 短期借入金 + 長期借入金 + 社債
 有利子負債比率 : 有利子負債額 / 自己資本

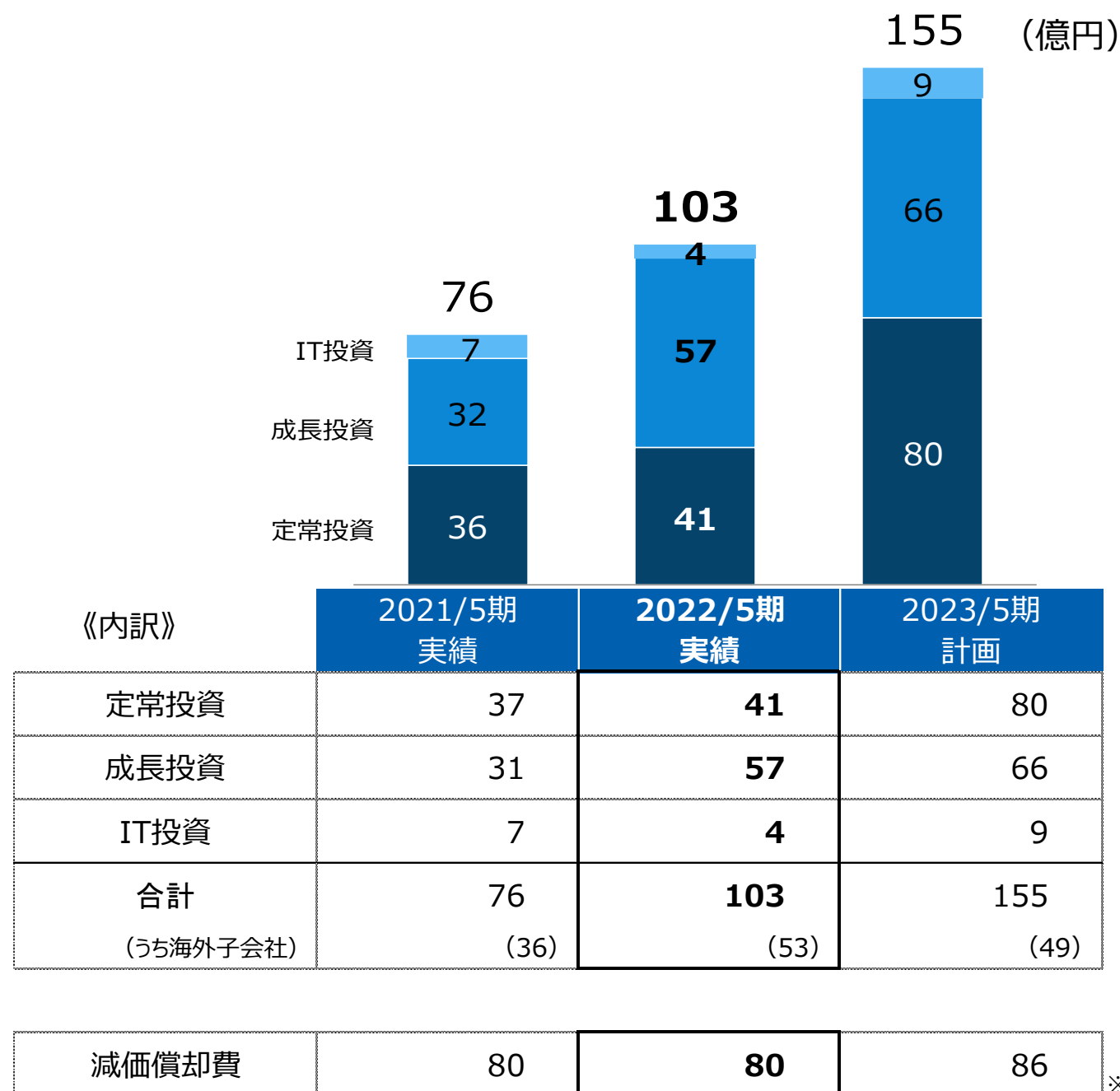
キャッシュ・フロー

(億円)



営業CF	24	投資CF	▲75	財務CF	2
税金等調整前 当期純利益	29	有形固定資産の 取得による支出	▲75	短期借入金純増減 (▲は減少)	▲11
減価償却費	80	その他	0	長期借入れによる 収入	194
売上債権の増減 (▲は増加)	▲84			長期借入金の 返済による支出	▲167
たな卸資産の増減 (▲は増加)	▲78			配当金の支払額	▲7
仕入債務の増減 (▲は減少)	123			その他	▲5
法人税等の支払額	▲21				
その他	▲23				

※ 金額は億円未満切り捨て表示



【 連結および持分法の適用範囲 】 (社)

	2021/5期 期末	2022/5期 期末	前期末比
連結子会社	47	47	0
持分法適用会社	7	7	0
合計	54	54	0

【 人員の状況（正社員） 】 (名)

	2021/5期 期末	2022/5期 期末	前期末比
三協立山	5,138	5,034	▲ 104
連結子会社	5,439	5,341	▲ 98
合計	10,577	10,375	▲ 202

【 計画前提・実績 】

		期中 平均値	2021/5期 実績	2022/5期 計画	2022/5期 実績	2023/5期 計画前提
アルミ地金価格 (日本経済新聞)		6～5月	261.1円/kg	325.0円/kg	402.0円/kg	405.0円/kg
為替	ドル	4～3月	106.1円	110.0円	112.4円	130.0円
	ユーロ	4～3月	123.8円	127.0円	130.5円	130.0円
	バーツ	4～3月	3.4円	3.5円	3.4円	3.5円
	元	4～3月	15.7円	16.3円	17.5円	20.0円

サステナビリティビジョン2050 Life with Green Technology

～「環境技術でひらく、持続可能で豊かな暮らし」を実現する企業グループへ～

カーボンニュートラルへの挑戦

事業活動に伴う温室効果ガス排出削減と、
環境技術で創出する商品・サービスによる
温室効果ガス排出削減とのバランスにより、
カーボンニュートラルを目指す。

資源の循環

循環型社会の実現に向けて、
主要原材料の循環使用の促進と、
廃棄物の再資源化を推進。

人財を未来へつなぐ

多様性や人権を尊重し人材育成を推進する
ことで活力ある企業風土を創出し、
豊かな暮らしを実現する原動力となる
「人財」を未来につなぐ。

2030年目標

温室効果ガス排出量

2013年度比で50%削減

対象：国内グループScope1+2

循環アルミの使用を促進

女性管理職比率 10%

E 環境



S 社会



G ガバナンス



【本資料に関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、三協立山株式会社および連結子会社（以下、総称して「三協立山グループ」という）の計画、戦略、業績などの将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、現時点で入手可能な情報から得られた三協立山グループの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しています。それらの影響により、三協立山グループの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、三協立山グループが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えるリスク、不確実性およびその他の要因としては、三協立山グループの事業領域を取り巻く経済情勢、三協立山グループの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化、為替相場、アルミ地金などの価格変動が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

本資料の複製・転載はお断りします。